

第 11 分科会 「 環 境 」 運営概要

【研究課題】 自然環境を大切にす心と実践力を育てる環境教育と校長の在り方

【研究の視点】 1. 教科・領域等との関連を図った環境教育の推進
2. 多様な体験的活動を通し、実践的態度の育成の充実

I 分科会研究協議の運営計画

科学技術の驚異的な進歩による経済活動の拡大・人口増加は、自然の持つ復元能力をはるかに超え、環境破壊を引き起こしている。地球環境の悪化、中でも地球温暖化の問題は、人類の生存にも関わる課題となっている。このような現状を踏まえ、自然環境の保護・整備、循環型社会の形成へ向けた意識改革が、全ての人に望まれている。とりわけ、次代を担う子どもたちや、教育に委ねられる期待は大きい。子どもたちには体験活動を通して、環境問題や人間と環境との関わりについて、正しい知識や考え方・見方を身に付けていくことが大切である。さらに、学校・家庭・関係機関等が連携し、環境問題解決のために積極的に取り組む子どもたちを育てていくことが重要である。

第 11 分科会では、自然環境を大切にす心と、環境保全のために主体的に行動する実践的な態度や資質、能力を育てる環境教育推進に果たす校長の在り方について検討、討議をする。

【視点 1】 **教科・領域との関連を図った環境教育の推進** <予想される討議内容>

- ・各教科、道徳、特別活動、総合的な学習の時間等の関連を図り、全校体制で取り組む環境教育の実践の成果と課題について
- ・環境教育の推進と指導体制づくりにおける校長の役割と指導性について

【視点 2】 **多様な体験的活動を通し、実践的態度の育成の充実** <予想される討議内容>

- ・体験的な活動を重視し、問題解決的な学習や実践的な活動に取り組む教育活動の充実について
- ・家庭、地域、関係諸機関との連携を図り、環境保全に主体的に取り組む子どもたちの態度や能力を育てる実践的活動の工夫について
- ・環境教育の実践的活動の充実に果たすべき校長の役割と指導性について

II 昨年度までの成果・課題

～平成 24 年度 道小 上川大会から～

- (1) 環境教育のねらいや体系を確認した上で、全体計画の整備と教育課程への確かな位置づけを図ることが重要である。
- (2) 日常の様々な体験活動や実践的な取組の中には、環境教育の要素が多く含まれる。校長はそのことを職員に周知するとともに、環境教育に対する実践意欲を喚起することに努める。
- (3) 環境教育の関わる諸活動を、学校は保護者や地域と一体になって推進し、日常生活の中で子どもたちが学んだことを活かす実践力を身に付けられるようにする。

～平成 25 年度 道小 渡島大会から～

- (1) 渡島地区より、地域の特色を生かした多様な体験的活動、特にエネルギー問題を通して、持続可能な社会の構築を目指した環境教育の実践、その取り組みを通して、子どもたちが基礎的な知識や実践力を身に付けていく過程が紹介された。
- (2) 地域の実態に即した取組を行うために、校長会として「指導資料」を作成し、その活用を図った。そのことは、今日的な課題に意欲的に取り組み実践しようとする教師の育成につながった。
- (3) 校長は自らが企画・実践の場でリーダーシップを発揮し、今後の社会の動向を見定め、内容の充実に努めること、また、小・中・高など異校種の連携による継続した取組を拡大させていくことの必要性が明らかにされた。

Ⅲ 研究発表の概要

◇研究発表者：美唄市立峰延小学校 校長 吉田政和

「地域の自然・産業等、特色を活かした環境教育の推進と校長の役割」

◇研究の概要

基本主題を「地域の自然・産業等、特色を活かした環境教育の推進と校長の役割」と設定し、平成24年度より3か年計画で研究を進めてきた。環境に関する子どもたちの一般的な傾向、環境教育推進の実態をとらえ、基本主題を受けた二つの視点をとおして、実態把握の分析、課題解決の方向性を探る。空知校長会とも積極的に連携し、研究の進捗状況や交流を図りながら進めてきた研究の成果・課題について提言する。

(1) 身近な環境に目を向け、課題解決力を育む学校経営

子どもが自分なりに問題を見つけ、知識や技能を高めながら、生涯にわたって自然や社会を大切にできる能力を育む環境教育の推進と校長の役割・指導性について提言する。

・学校体制の整備 ・校種間の連携 ・家庭、地域、関係機関との連携

(2) 美唄市グリーン・ルネッサンス事業を活用し、実践力を育てる学校経営

農業の実体験を通し環境に対する理解を深め、キャリア・食育教育とともに日常生活で実践していく能力や態度を育てる計画的・体系的な環境教育の推進と校長の役割・指導性について提言する。

・地域人材の活用、充実と校長の関わり

・地域に根ざした環境指導（教育活動）の充実と校長の関わり

Ⅳ 協議の流れ

1. 開会：日程確認（5分）	13:00～13:05
2. 趣旨説明（10分）	13:05～13:15
3. 参会者キーワード作成 記録シートに記入（2分）	13:15～13:17
4. 研究発表（25分）	13:17～13:42
5. 質疑応答（28分）	13:42～14:10
・参会者は記録シートに研究発表への質問や感想を書き込む（8分）	
・研究発表の質疑（20分）	
6. 休憩（10分）	14:10～14:20
7. グループ討議（60分）	14:20～15:20
【討議の柱】	
1 各領域における学習内容相互の関連を図り、横断的・総合的な環境教育を組織的に推進するための校内体制の確立に、校長はどのように指導性を発揮するか。	
2 子ども幅広い体験の場を確保し、深まりを求め、生活の中での実践力を高めるための連携づくりの推進に、校長はどのように指導性を発揮するか。	
8. 休憩（10分）	15:20～15:30
9. 論点カード作成（5分）	15:30～15:35
10. 全体協議（35分）	15:35～16:10
6グループ×3分	
11. 研究協議のまとめと今後の課題（15分）	16:10～16:25
12. 連絡・閉会（5分）	16:25～16:30